

# 群馬縣産蟻類目録

吉岡春之助

[A LIST OF THE ANTS OF GUMMA PREFECTURE

By HARUNOSUKE YOSHIOKA]

日本産蟻類に就いて日本人に依つて發表された最初の纏つた目録は明治四十三年に公にされた矢野宗幹<sup>(1)</sup>氏の日本産蟻類目録で、之には臺灣をも含めて77種が擧げられて居る。各種に産地の註記はあるが、本島中部とか九州とか廣い範圍の擧げられて居るものが大多數で、縣名又は國名の擧げられて居るものは少數である。其後長い間日本産蟻類目録の發表は見られなかつたが、昭和十年一同十一年に太田幸好<sup>(2)</sup>氏が日本産蟻類目録を發表された。之には69(+2)種が擧げられ、北は樺太より南は琉球臺灣まで含み、朝鮮にまで亘つて居る。しかし岐阜其他一、二を除けば縣名の註記は無く、矢野氏の目録と同じく本州、四國等廣い範圍が記されて居る。縣を單位として蟻類目録が發表されたのは寡聞なる余の知れる範圍に於ては太田幸好<sup>(3)</sup>氏の岐阜縣産蟻類目録(昭和六年)があるだけである。太田氏は35種を擧げられて居り、其中12種は名和昆蟲研究所屋上のアーク燈に飛來せる有翅蟲で、職蟻の擧げられて居るのは19種である。残りの1種は脱翅せる雌蟻である。(太田氏の目録には35まで番號付けがあるが、25の番號は缺けて居り、又No. 27の *Lasius niger* とあるのはNo. 21のトビイロケアリの有翅蟲の事であると思はるる節あり、又No. 10の *Crematogaster (Acrocoelia)* sp. とあるのは何かの誤記と思はれるから結局32種であらう。)尙有翅蟲の中4種は査定未了のもので、又職蟻の中に *Formica* 屬の不明種1種が含まれて居る。此太田氏の目録の中の有翅蟲に就いては寺西暢<sup>(5)</sup>氏の論文を参照すべきである。寺西氏の此論文附表に列擧してある種類で太田氏の目録に擧げて無いものが4種ばかりあるのは如何なる理由に依るものか理解に苦しむ處である。之等を加ふれば太田氏の岐阜縣産目録は36種となる筈であらう。

稍狭い地域の蟻類が列擧されてゐるものでは、寺西<sup>(6)</sup>氏の鳥取砂丘の蟻相(14種)、徳永雅明<sup>(7)</sup>氏の紀州海岸の蟻(16種)、並びに太田幸好<sup>(8)</sup>氏の岐阜市外金華山の蟻(5種)、の發表がある。

外國學者の公にした日本内地産蟻類の最初の纏まつた目録は昨年(1937年)物故した米國の蟻學大家 WHEELER<sup>(9)</sup> が1906年に發表した *The Ants of Japan* なる論文で、之には51種が擧げられて居り、新種其他合せて14個の美しい圖が添へられて居る。其後 WHEELER<sup>(10)</sup> は SILVESTRI の採品を基として1928年に *Ants collected by Professor F. SILVESTRI in Japan and Korea* なる論文を

關西昆蟲學會々報 No. 8. 1939. p. 64—69.

發表し、篇尾に改定日本産蟻類目録を附し内地産86種を擧げて居る。日本内地産蟻類の包括的な目録は今日の處これ以外には存し無い。因に臺灣産蟻類目録は WHEELER<sup>(11)</sup> の廣範な目録 (141種) があることを記して置く。

次に目録として發表されたものでは無いが寺西<sup>(12)</sup>氏の日本産蟻類の習性と分布は日本内地産蟻類56種に就いて記されて居る。之は WHEELER の論文と共に日本内地産蟻類に關心を有する者の見逃し得ざるものである。

日本の蟻相を明かにするには、各府縣又は各島の蟻相が明かにせられなければならない。其一資料にもと余は最近數年間に調査した群馬縣産蟻類の目録を此處に發表しやうと思ふ。之等はすべて職蟻に依るもので、有翅の雌雄又は脱翅せる雌蟻をも合せて採集せるもの若干あるが、分布の資料としては不要と見てよから注記せない。

尚蟻科の亞科の分け方に就いて一言して置かう。從來蟻科の亞科は歐洲の蟻學大家 EMERY<sup>(13)</sup> 及び FOREL<sup>(14)</sup> に依つて次の5亞科に分けられて居た、

Ponerinae	ハリアリ亞科
Dorylinae	
Myrmicinae	フタフシアリ亞科
Dolichoderinae	ルリアリ亞科
Formicinae (Camponotinae)	クマアリ亞科

今日に於ても歐洲の蟻學者は此分け方を採用して居るが、近年に到り WHEELER は Myrmicinae を2個の亞科に分割して、Myrmicinae と Pseudomyrmicinae となし、又 Ponerinae を Ponerinae と Cerapachyinae の2亞科に分割した<sup>(15)</sup>。更に最近に到つて Dorylinae をも2亞科に分割して Dorylinae と Leptanillinae とにして居る<sup>(16)</sup>。且つ將來 Myrmicinae は更に數個の亞科に分裂すべきであらうとの意見を發表して居る<sup>(16)</sup>。WHEELER の此分類法に依ると臺灣には Leptanillinae を除き他の7亞科を産<sup>(11)</sup>するが、内地には次の4亞科しか産し無い。

Ponerinae
Myrmicinae
Dolichoderinae
Formicinae

日本内地に産する蟻類は歐洲及び北米と同様に、Myrmicinae と Formicinae とが大多數を占めて居る。之等4亞科の亞屬までの檢索表が寺西<sup>(17)</sup>氏に依つて公にされて居る事を附記して置く。

## 文 献

(1) 矢野宗幹：日本産蟻類に就きて (動雜. 第22卷 P. 418)

- (2) 太田幸好: 日本産蟻類 (昆世. 第39卷 P. 286, P. 329; 第40卷 P. 166, P. 426.)
- (3) 太田幸好: 岐阜縣産蟻類目錄 (昆世. 第35卷 P. 85 及び P. 115)
- (4) 杉原勇三: 土佐に於ける膜翅類相, 蟻科の部 (關西昆雜 第1卷 p. 19, 1933)
- (5) 寺西 暢: 名和昆蟲研究所のアーク燈に來た羽蟻 (關西昆會報 No. 1, P. 87 附表 1930)
- (6) 寺西 暢: 鳥取砂丘の蟻相に就いて (關西昆會報 No. 4, 1933)
- (7) 徳永雅明: 紀州海岸に見られる蟻 (關西昆雜 第2卷 P. 40, 1934)
- (8) 太田幸好: 金華山の蟻五種に就いて (昆世, 第42卷 P. 125, P. 186, 未完)
- (9) WHEELER: The Ants of Japan, (Am. Mus. Nat. Hist., Vol. XXII P. 301, 1906.)
- (10) WHEELER: Ants Collected by Professor F. SILVESTRI in Japan and Korea, (Boll. Lab. Zool. Gen. Portici Vol. XXI, P. 96, 1928)
- (11) WHEELER: Ants Collected by Professor F. SILVESTRI in Formosa, the Malay Peninsula and the Philippines, (Boll. Lab. Zool. Gen. Portici Vol. XXIV, P. 27, 1929)
- (12) 寺西 暢: 日本産蟻類の習性と分布 (動雜, 第41卷 P. 239 P. 312, 1929. 關西昆會報 No. 4 P. 77)
- (13) EMERY: Formicidae, Genera Insectorum, 1910—1925.
- (14) FOREL: Die Ameisen der Schweiz, 1915.
- (15) WHEELER: Keys to the Genera and Subgenera of Ants, (Bull. Am. Mus. Nat. Hist. Vol. XLV, P. 631, 1921—1922)
- (16) WHEELER: The Social Insects, P. 105, 1928.
- (17) 寺西 暢: 日本舊北區の蟻 (第1報) (關西昆會報 No. 1, P. 17, 1930)

## 群馬縣産蟻科目錄

[A LIST OF THE ANTS OF GUMMA PREFECTURE]

Myrmicinae フタフシアリ亞科

- (1) *Myrmica ruginodis* NYLANDER subsp. *kotokui* FOREL.  
三國峠, 上ノ原, 至佛山
- (2) *Aphaenogaster famelica* F. SMITH.  
アシナガアリ 縣内各地
- (3) *Pheidole fervida* F. SMITH.  
アツマオホツアカアリ 桐生
- (4) *Crematogaster matsumuari* FOREL.  
ハリプトシリアゲアリ 桐生

- (5) *Crematogaster sordidula* NYLANDER subsp. *osakensis* FOREL.  
キイロシリアゲアリ 桐生
- (6) *Vollenhovia emeryi* WHEELER.  
ウメマツアリ 桐生
- (7) *Monomorium nipponense* WHEELER.  
ヒメアリ 桐生
- (8) *Pristomyrmex pungens* MAYR.  
アミメアリ 桐生
- (9) *Leptothorax congruus* F. SMITH.  
ムネボツアリ 桐生
- (10) *Leptothorax* sp.  
上ノ原
- (11) *Tetramorium caespitum* LINNAEUS subsp. *jacoti* WHEELER.  
トビイロシワアリ 桐生
- (12) *Strumigenys godeffroyi* MAYR var. *lewisii* CAMERON.  
ウロコアリ 桐生
- (13) *Messor aciculatus* F. SMITH.  
クロナガアリ 桐生

## Dolichoderinae ルリアリ亞科

- (14) *Dolichoderus quadripunctatus* LINNAEUS n. subsp. (1)  
尾瀬附近ネバ澤，水上村上ノ原
- (15) *Dolichoderus quadripunctatus* LINNAEUS n. var. (2)  
桐生

## Myrmicinae フタフシアリ亞科

- (16) *Camponotus japonicus* MAYR.  
クオオホアリ 桐生
- (17) *Camponotus herculeanus* LINNAEUS subsp.  
*ligniperda* LATREILLE var. *obscuripes* MAYR.  
ムネアカオホアリ 桐生
- (18) *Camponotus caryae* FITCH var. *quadrinotatus* FOREL.  
ヨツボシオホアリ 桐生
- (19) *Camponotus caryae* FITCH subsp. *tokioensis* ITO.  
ウメマツオホアリ 桐生

- (20) *Polyrhachis lamellidens* F. SMITH.  
トゲアリ 桐生
- (21) *Paratrechina sakuræ* ITO.  
サクラアリ 桐生
- (22) *Paratrechina flavipes* F. SMITH.  
アメイロアリ 桐生
- (23) *Lasius niger* LINNÆUS  
トビイロケアリ 桐生
- (24) *Lasius niger* subsp. *niger* var. *alieno-niger* FOREL.  
尾瀬附近ネベ澤
- (25) *Lasius niger* LINNÆUS subsp. *emarginatus* LATREILLE.  
桐生
- (26) *Lasius flavus* DE GEER.  
キイロケアリ 赤城山
- (27) *Lasius fuliginosus* LATREILLE.  
クোকサアリ 桐生
- (28) *Lasius fuliginosus* LATREILLE var. *spathepus* WHEELER.  
クサアリモドキ 桐生
- (29) *Formica truncorum* var. *yessensis* FOREL.  
エゾアカヤマアリ 上ノ原
- (30) *Formica exsecta* var. *fukai* WHEELER.  
ツノアカヤマアリ 尾瀬峠
- (31) *Formica fusca* subsp. *fusca* LINNÆUS var. *japonica* MOTSCHULSKY.  
クロヤマアリ 桐生
- (32) *Formica fusca* subsp. *fusca* LINNÆUS var. *glebaria* NYLANDER.  
エゾクロヤマアリ 三國峠
- (33) *Formica fusca* LINNÆUS subsp. *picea* NYLANDER.  
ツヤクロヤマアリ 赤城山
- (34) *Formica* sp. (1)  
尾瀬峠
- (35) *Formica* sp. (2)  
桐生
- (36) *Polyergus samurai* YANO.  
サムライアリ 桐生

以上の中 (4) の *Crematogaster matsumurai* FOREL は在來 *C. labriosa* var.

*matsumurai* FOREL として知られて居たものであるが、WHEELER は SILVESTRI の採品を検して之は獨立種とすべきもので、然らずんば *C. brunnea* F. SMITH の亞種と見るべきものであると云つて居り(文獻<sup>(10)</sup> P. 110 参照), 彼の目録<sup>(10)</sup> 中では *C. matsumurai* FOREL として擧げられて居る故余も之れに従つた。

(27) と (28) も此學名は問題があり、改定さるべきものであるが(文獻<sup>(10)</sup> pp. 120—122 参照), 今暫く上記の舊學名を掲げて置く。

(34) と (35) は寺西暢氏が普通のクロヤマアリ (31) とは異なると共に相互にも異なるとされたのであるが、未だ種名を審にせない。

余の今までの調査では本縣内に産する蟻類は以上36種である。Ponerinae は1種も擧げ得なかつたが、之は産せぬのではない、2, 3 採集し居るのであるが各1頭宛で査定未了なのである。

以上列擧せる種類は全部故寺西暢氏の査定を煩はしたものであり、尙若干は WHEELER の査定をも受けた。DOLICHODERUS 屬は未だ今日まで日本内地より報告されたことが無く、且つ (1) は新種なることを WHEELER が生前確めて呉れたので、其記載を近々發表したいと思つて居る。(本號所載)。